

ココロにサプリ

広報メディア研究所代表 上野 弘子

第114回

花展 イン
プリンス・エドワード島



小説「赤毛のアン」の舞台としても知られている。

1908年に「赤毛のアン」が世に出て以来、この物語に登場する美しい島がどこにあるのか、どうすれば行けるのか、と多くの人々が憧れ続けてきた。

私は特にこの物語のファンという訳ではないのだが、この夏、この島を訪れる機会に恵まれた。

4年前にドイツで開催した花展を、今回はプリンス・エドワード島で開くことになり、フラワーアレンジメント教室の先生や仲間15人と共に、夏の始まりを告げるフェスティバルに参加することになったのだ。

出発は関西国際空港。まず、カナダの西海岸バンクーバーへ約10時間のフライト。次いで小型飛行機で30分ほどの距離にあるビクトリアで1泊した。

ガーデンシティとも呼ばれるビクトリアには、季節の花が咲き誇る大規模な庭園ブッチャートガーデンがある。お花つなりのグループ旅行なのでここは見逃



Prince Edward Island Jun.28,2015

せない。ローズガーデン、イタリア庭園など趣向を凝らした園内には小川が流れ、鳥居や太鼓橋が置かれた立派な日本庭園も造られていた。このように、外国に行くといかに世界の人々に日本文化が好まれ尊ばれているかを知ることが多く、改めて自国への自信と誇りが湧いてくる。

プリンス・エドワード島というロマンチックな名前の島がある。

カナダの東端、セントローレンス湾に浮かぶ下弦の月の形をしたこの島は、北米の人たちにとって人気の避暑地であり、

二日目は、ビクトリアから空路東側のトロントへ。さらに小型機に乗り換え、プリンス・エドワード島の州都シャーロットタウンへ。飛行機に乗っている時間は合計6時間ほどだが、時差や乗り継ぎの際の待ち時間もあり、到着したのは午前2時。まさに丸一日を費やす大移動。気



Charlottetown Jun.29,2015

温もぐつと下がり、暗闇の中、ホテルに向かうタクシーの中で最果ての地に来たような気分になった。

しかし、夜が明けると一転、気温15度と爽やかな空気に包まれ、緑の中に英国の田舎を思わせる静かな町が現れた。

今日は、一日観光。のどかな田園地帯に点在する「赤毛のアン」の舞台となったグリーン・ゲイブルズ・ハウス、L.M.モンゴメリの住居跡、イングリッシュガーデンなどを見学し、青く輝く海とルピナスの花が群生する草原、お伽噺に出てくるような町並みを楽しんだ。あくまでも自然や景観を大切に、商業施設を最小限に抑えている点は、ぜひわが国の観光地も見習ってほしいものだ。

4日目はいよいよフェスティバル当日。会場となったコンフェデレーションセンターの広場には、食や音楽、文化などを紹介するテントが並び、

私たちも日本で制作し持参したシルクフラワーの作品と現地で生けた生花を会場に運び込み、テント内に展示。壁面を

書で飾り、野点と共に日本の花の芸術を披露した。

人口3万人ほどのこの町では、日本文化を知る機会がこれまでほとんどなかったようだ。地元の人々が次々とテントを訪れ、繊細な花のアートに感嘆の声をあげ、即売用の作品は早々と買い手がついた。拙い私の作品まで大切に抱えて帰って行く人々の姿には、有り難さで涙がこぼれそうになった。

長距離を移動し、観光を楽しみながらも睡眠不足の中で花展の準備をし、慣れない接客をし、疲れは最高潮に達していたはずだが、自分たちならではの国際交流ができたという達成感で、不思議と疲れは感じなかった。

名物のロブスター料理で打ち上げをした後、翌日はトロントに戻りナイアガラ瀑布を見学。無事に1週間のカナダ旅行を終え、帰国の途に。

帰りの飛行機の中では、先生と「次ほどの国のどこの町で花展をしようか」と早くも次の計画を練るのに余念がなかった。